

安全と環境を考えるニシオの広報誌

安全くん

2003

Vol-2

62



表紙写真：岩手山栗石町にて撮影

とれ行け!! 安全くん 「夜間工事も花粉症も “備えあれば憂いなし”」の巻

●解説コーナー

「道路上でのもらい事故・第三者の不注意による事故の防止について」
「花粉症対策あれこれ」

●世の中 見たトコ勝負 VOL.2

「アイ ラブ コンビニ」

●NISHIO TOPICS

工事用信号車“とまれくん” レンタル開始!



インターネットホームページ
「安全くんネット」もご覧ください。

<http://www.anzenkun.nishio-rent.co.jp/>



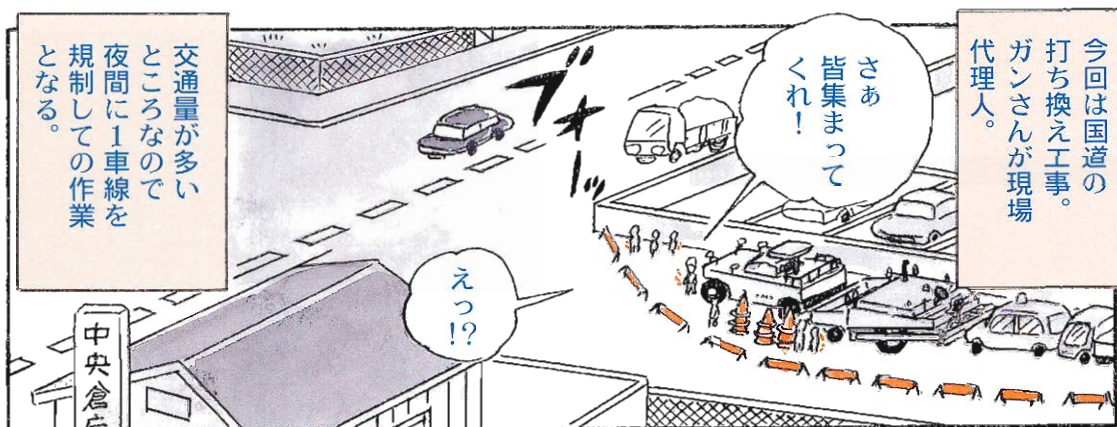
〈この広報誌は、再生紙を使用しています。〉

それ行け!! 安全くん

画 中村よしのぶ

連載 その62

「夜間工事も花粉症も 「備えあれば憂いなし」」の巻





道路上でのもらい事故・第三者の不注意による事故の防止について(その1)

道路上での重大災害で現在問題になっている「もらい事故」。以下は、平成14年6月に国土交通省 関東地方整備局から発表された資料（平成14年度重点的安全対策）の中から引用させていただきます。

1. 追加保安施設の設置

体感マット、クッションドラム、交通誘導ロボット等により安全性の向上を図ること。

2. 有資格者交通誘導員等の配置

有資格交通誘導員等を配置し、交通整理員・誘導員の質の向上により事故の防止を図ること。

3. 交通整理員の安全確保

(1) 交通整理員の注意事項

- もらい事故の多い時間帯（夜間0時～3時に多い）は、特に注意するよう徹底すること。
- 交通整理員は、一般車両を止めるとき規制帯外に出て体を張ってまで止める必要はない。危険を感じたら、作業員等へは笛を吹くなどして危険を知らせること。
- 交通整理員は、クッションドラム後方の歩道側に立って危険を感じたときに退避しやすくすること。
- 交通整理員は、規制車が停止線近くでも速度を落とさないような場合、危険を避けられる姿勢を取り、危険を感じたらすばやく退避すること。
常に『突っ込まれるかもしれない』という意識を持って注意しながら誘導にあたること。
- 交通整理員は、特に夜間における視認性に配慮し、なるべく明るい色彩の服装を着用するとともに反射性の良いチョッキ等を着用すること。



注）平成14年3月28日付にて 国土交通省から出された【平成14年度 公共工事設計労務単価（基準額）について】の中で、「従来の交通整理員を「交通誘導員」へと名称変更する。」とありますが、ここでは出典どおり「交通整理員」の表現で掲載しました。



解説コーナー

道路上でのもらい事故・第三者の不注意による事故の防止について(その2)

その1にて、「交通整理員の注意事項」を紹介しましたが、続いて施設等についての項目です。これも、同じく国土交通省関東地方整備局発表の資料(平成14年度重点的安全対策)からの引用です。

1) 交通誘導施設等の導入

- ①工事用信号機の活用: 片側交互交通の場合で、比較的交通量が少なく交通渋滞の懸念がない区間では、公安委員会の了解を得て設置することも考慮すること。
- ②交通誘導ロボットの活用: 片側2車線以上の道路では、a.複雑な交通誘導がない、b.遠くからの見通しがよい、c.渋滞の発生が比較的小さい、d.一般ドライバーの心証を害さない、等誘導ロボットを活用することが適すると判断される場合は、公安委員会の了解を得て設置すること。

2) 交通整理員の退避場所の確保

- 規制帯の設置時には、交通整理員の退避可能な場所を確保すること。特に、ガードレール等が設置されている区間では、その一部を取り外す等避難場所の確保に努めること。

3) 規制帯脇からの事故防止

- 片側2車線以上で1車線を規制する場合、可能な限り車の来る方向を向いて作業を行うこと。

4) 保安施設設置の確認

- 基準、協議通りの保安施設が設置されているか確認すること。■標識等の設置が十分か確認すること。
- 夜間工事の場合、照明は可能な限り明るくすること。■日々の交通規制準備完了後は、作業や現地状況に合った規制状況(施設の配置含み)となっているか、通行者の立場で規制状況を確認すること。

5) 安全確保のための資器材の調査・導入

- 交通整理員の安全を確保するため、常に現地の状況と合致した施設・器材となるよう注意し、事故防止対策として効果的と判断された場合、率先して導入を図ること。



ガンさんのフシポイントレッスン 『安全パトロールを考える』

- ◆ 今回のハナマル工務店の現場でも話題になっていました安全パトロール。パトロールとは、「巡回、巡視」の意味ですが、どうもパトカーのイメージが強く「思わず隠れなくなる」、そんな気分になる方も多そうです。その目的、チェックの内容は、①労働安全衛生法、その他の法令や規定を遵守し、実行しているか。②事前に提出している安全対策が確実に実施されているか。③その他、安全対策、措置に誤りや見落としがないか、十分な効果があるものか。などが考えられます。
- ◆ このような、安全パトロールでは、安全担当部署だけでなく、場合により他社、他部門、他職等、さまざまな立場の方からアドバイスももらえることも多いだけに、自分たちだけでは気付かない部分やもっと良い方法など、積極的・協力的にこれを受け入れ改善を行ってください。また逆に、その現場で導入した安全対策や保安機材などをアピールする場にもなります。
- ◆ 但し、発注者や労働基準監督署によるパトロールにおいて、違法行為や重大な危険を発見されれば、作業の停止・改善命令などの措置がとられることもあります。本来、パトロールは時期を決めず、抜き打ち的に実施すべきもの。徐々に、この傾向が強まっているようです。普段から、いついかなる状況でも、堂々とパトロールを迎え入れられるようにしたいもの。パトロールだけの安全対策でなく、しっかりと自分たちを守り、周囲の人々にも迷惑をかけないよう配慮してください。



SAFETY CHECK セーフティチェック

小型ガソリンエンジンに潜む危険

ポータブル発電機や小型エンジン機械工具に搭載されているガソリンエンジンは、動力の手配が要らないので幅広い現場で使われます。しかし、燃料に酸化性の高いガソリンを使用しているため使用時より、運搬や保管、給油時に火災や爆発事故を招く危険があります。

□ 転倒・横揺れによる燃料漏れで引火！

小型機材は持ち運びが簡単のため、取扱いが煩雑になりがちです。特に車両に積載し移動する場合、荷台にしっかり固定されず本体が転倒したり、揺れにより燃料タンクのキャップが緩み、ガソリンが漏れる恐れがあります。また、燃料コックが「開」のまま運搬すると、振動でキャブレター上部から燃料がオーバーフローすることがあります。事故事例としては、防音タイプの発電機で、カバー内張りの防音ウレタンに漏れたガソリンが浸透したのを気づかず運転を始め、マフラー等の熱で引火した事故があります。運搬移動時は、燃料コックを閉じてキャブレター内のガソリンも抜いておきましょう。

□ 燃料給油は静電気に注意！

燃料をタンクに入れる際は、必ずエンジンを停止させてください。火気厳禁です。またガソリンを取扱う時には、静電気も見逃さず。もし、体に静電気がいった状態ではガソリンタンクの給油口を開けた時、運搬中静電気の火花が指先で発生したら・・・。ガソリンの蒸気に触れ、火災になることも考えられます。静電気を除去するために給油する前に必ずボディーの金属部に素手で触れ、静電気を逃がしてから給油しましょう。

※古い燃料は、エンジンのかかり悪くなります。タンク内とキャブレターに残置した燃料は抜き取り新たに給油の方がよいでしょう。





解説 コーナー 『花粉症対策あれこれ』

日本気象協会によると、①天気が晴れまたはくもり、②最高気温が高い、③湿気が低い、④やや強い南風が吹き、その後北風に変化したとき、⑤前日が雨、などのときが花粉の飛散する要注意日です。

予防は、花粉との接触を避けることが第一。外出時はマスク、帽子、眼鏡を着用。花粉が付にくい目の粗くない生地の衣類を着る。帰宅後は、洗顔やうがい忘れずに。家では、窓や戸をしっかり閉め、外で干したふとんや洗濯物は、取り込む前によく払うようにしましょう。

血管を膨張させて鼻づまりをひどくするお酒や、粘膜に刺激を与えるタバコは控えめに。その代わりに、症状を緩和するてんちゃ甜茶やシソの入った飲料や餡はいかがでしょう？

* ドラッグストアでは様々な対策グッズが並んでいますが、治療する効果はありません。「おかしいな?」と感じたら、早めに専門医に診てもらいましょう。



SAFETY CHECK

セーフティ
チェック

ルミエアーの日常点検とトラブルシューティング

気球照明ルミエアー。現場でのトラブルからその対処方法と日常点検のポイントをまとめてみましょう。

●トラブルシューティング

①バルーンが膨らまない！！

バルーン側接続コンセントが、外れていないか確認。それでも作動しない場合、電源が適正な電圧（100Vタイプは、100/110V・200Vタイプは、200/220V）で供給されているかテスターでチェックします。電源に発電機や電工ドラム、延長ケーブルを使用している場合は要注意です。

②電気がつかない！！

主な原因は、バルーン内側の電球のソケットへ差し込みが浅い場合が多く、一度電源を切り確実に電球を差し込み直します。なお、直接素手で電球を触るとガラスが割れてしまいます。ご注意ください。ハロゲンタイプは、プレーカーヒューズが落ちている場合があるので、リセットボタンで復帰させてください。以上の措置で解決しない場合は、ニシオの営業所まで状況をご連絡ください。

●日常点検ポイント

ルミエアーを点灯させる前に次の箇所を点検してください。

- ①各部の接続コンセントの状態（傷・断線・締まり）②安定器の各種ランプの点灯 ③電球（割れ・汚れ・ソケットへの差し込み）④バルーン表面（裂傷、穴、汚れ）⑤バルーンの内張り（亀裂・曲がり）⑥安定器外観（汚れ・凹み・損傷）

※ルミエアーは消灯後しばらく電球を冷やすためバルーンを膨らませたままで、約10分ほど冷却時間をおいてください。



